

# 宗像みあれ芸術祭2024 記録集

Munakata Miare Art Festival 2024  
Documentation Book



# Miare Art 2024

いのちをむすぶ、物語をつむぐ  
Bonds of Life, Weaving Stories

# 宗像みあれ芸術祭 2024 記録集

## 目次

- 02 あいさつ
- 04 クラウドファンディングご支援者メッセージ

## Artworks

- 10 つなぎめ / 光延咲良
- 14 雲プロジェクト - 宗像大社に雲を浮かせる / 篠田ゆき
- 18 わらくじら / わらアートJAPAN
- 22 彼方より / 三石玄
- 26 そこに映るあなたは  
～先人より受け継がれたいのち～ / 河谷來明
- 30 音のみあれ / 橋本次郎
- 34 命輪 / HÖSLAB 鹿児島大学 細海研究室
- 38 That Thou Art / 中野信子
- 42 いつかここで / ソニア・チョン
- 46 制作の記録：アートが生まれるまで

## Festivals & Events

- 52 子どもみあれアート&マルシェ
- 54 津軽三味線・能の舞コンサート
- 56 フォトコンテスト：僕の神様の顔を探す
- 57 障がいとともに生きるアート展 in むなかた茶愉  
のぞきあなART
- 58 みあれアートマップ2024

## Legacy & Future

- 64 神宝館更新事業
- 65 クラウドファンディングのご報告と御礼
- 66 会場で出会った、みなさまの声 / 広報活動報告
- 68 2024年の活動を支えてくださった方々

会期：2024年10月1日(火)～10月20日(日)  
会場：宗像大社辺津宮境内(境内、祈願殿、むなかた茶愉など)  
宗像ユリックス

入場料：無料



## いのちを結ぶ、 祈りとアートの交わる場所

宗像みあれ芸術祭は、宗像大社を起点に、宗像各所へ広がるアートプロジェクトです。「みあれ」とは、神様が一年に一度生まれ変わるとされる、宗像大社で10月に行われる神事に由来する言葉。アートを通じて、子どもたちをはじめ多くの方に創造の世界を楽しんでいただくことを目指し、2024年度で3年目を迎えました。

宗像大社は、古代から続く祈りの場であり、国宝8万点を収蔵する神宝館には、海を越えた交流の証や人々の願いが息づいています。森と海が共生するこの地の参道を歩けば、豊かな自然と歴史の息吹を感じることができるでしょう。そこに、現代アートが呼応し、新たな対話を生み出す場が誕生しました。

本年度は、全国公募で選ばれた7名の作家と招待作家が宗像の地に集い、宗像大社と宗像ユリックスを舞台に、「いのちを結ぶ」をテーマにした作品を発表しました。作家たちは、宗像の歴史を紐解き、現代に生きる人々へのメッセージを込めたアートを制作。神聖な空間に寄り添う作品、森に抱かれた参道を進む中で出会うアート、さらにはユリックスの古墳広場に溶け込む表現が、訪れる人々に新たな気づきをもたらしました。

また、子どもたちがアートと環境に触れる「子どもみあれアート&マルシェ」、市民が作品の一部となる「アートワークショップ」、伝統と創造が響き合う「津軽三味線×能の舞コンサート」など、多彩なプログラムを実施しました。

さらに、文化を未来へつなぐ取り組みとして、私たちは「神宝館更新事業」にも関わりました。国内外の訪問客に向けて、新たな展示解説・リーフレット・ウェブページを制作。これらの文化の継承と発信が実現できたのは、クラウドファンディングを通じた多くの支援のおかげです。また、本芸術祭は、多くの協賛・協力者の皆さまの支えによって実現しました。企業・団体の皆さま、個人のご支援者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

こうしたご支援のもと、芸術祭は一過性のイベントにとどまらず、地域に根ざした取り組みへと発展しています。その象徴として、一部の作品が宗像ユリックスや地元施設に移設され、2025年までの長期展示が決定しました。

森に降る雨が大地に染み込み、川となり海へ流れ、やがて天へと還るように——。アートもまた、人々の心を潤し、日々の営みに問いを生み、未来へと続いていくもの。本記録集が、この地で生まれたアートの「記憶」となり、これからも祈りとともに開かれていくことを願います。

宗像現代美術展実行委員会

# 1

## 未来へのメッセージ ～アートがつなぐ想い～

宗像みあれ芸術祭に初回から参加する機会を得た私は、地域にアートを広める意義に、心から共感していました。今回もボランティアやアーティストたちと出会い、互いに自己紹介を交わすなかで、多くの人々がアートを通じて地域を盛り上げたいという情熱を持って参加していることを実感しました。また、一つの作品を作り上げる過程では、笑顔や励ましの言葉が飛び交い、共に汗を流しながら生まれる一体感は、毎回心地よいものでした。そして、ついに作品が完成した瞬間——胸に込み上げる感動は、言葉では言い表せないほどのものでした。完成した作品は、訪れる人々に自然の美しさと共生の大切さを伝え、作品の前で足を止め、感動の声を上げる姿を見るたびに、心から「参加してよかった」と感じました。宗像みあれ芸術祭でのボランティア体験を通じて、アートが持つ力と、地域コミュニティに貢献する喜びを深く実感しています。この体験は私にとって一生の宝物となり、また次回もぜひ参加したいと思っています。

砥綿隆二

### 実行委員会コメント 砥綿様のメッセージに寄せて

アートは一人で生まれるものではなく、人と人が出会い、共に創ることで深まっていきます。砥綿さまの言葉から、作品が完成する瞬間の喜びや、関わった人々との一体感が伝わってきます。芸術祭の中で生まれたこの経験が、未来の誰かへとつながっていきますように。



## 2

### 海を眺めるように、食事を楽しむように

コンスタンティン・ブランクーシの「空間の鳥」。

するどい光の一筋であるかのような彫像に目の前で時が止まり、私は動けなくなった。

あとはマーク・ロスコの絵画群。

向き合っていたら、吸い込まれるような、

作品と自分が一体化してしまうような浮遊感を身体感覚で得たこともあった。

どうしてその作品に惹かれてしまったのかいつも結局言語化できない。

ただ素晴らしい作品との出会いはいつも身体が教えてくれる。

だから作品鑑賞に余計な知識は要らない。

リラックスして自分の感度を信じて、

心を開いて、目の前の作品と向き合うだけ。

海を眺めることや食事を楽しむことと、同じように向き合うんだと思っている。

あとはその余韻を大事に大事にして、

感動をなるべくそのままに、心の引き出しにしまっておくことも大切なこと。

そうやって貯金した感動が私という人間をつくっている。

川田 祥子

#### 実行委員会コメント 川田様のメッセージに寄せて

アートは、感じるもの。作品の前に立ち、言葉にならない感動を受け取る時間は、自分自身と向き合う貴重な瞬間です。川田さまの言葉から、アートと出会うことの喜び、そして感動を大切にすることの意味が伝わってきます。このメッセージが、これからアートに出会う人たちへ響きますように。



## Artworks

記憶をつむぐ 一宗像の大地に刻まれるアート  
Beyond Time: Art in the Sacred Landscape

## つなぎめ

素材：耐候性鋼  
展示場所：むなかた茶偷

つながる鉄のかたち。

角度を変えれば、一瞬だけ菱形が浮かび、

巡る視線の中でほどけ、また結ばれる。

触れ、乗ることのできる彫刻だけれども、

ここでは、遠くから見つめてほしい。お茶をしながら、談話しながら。

風景を映し、切り取り、重なり合う。

その静けさの中で、作品は、そっと語りかけていた。

そして2025年、作品は新たな場・宗像ユリックスへ。

新しい場所では、ただ観るだけでなく、触れることで、

より深く作品と対話できる\*。

\*→P48



### 光延咲良

福岡県久留米市出身。長岡造形大学美術・工芸学科を卒業後、  
工芸の若手作家展や彫刻作品展などにて作品を発表。何気ない  
風景の中に置かれた作品によって、新しい交流や循環が生まれ  
る場の創造に意識を向けている。

■2024年公募による参加作家





## 雲プロジェクト —宗像大社に雲を浮かせる

素材：ワイヤー、鉄材、綿（耐水加工）、糸、テグスなど  
展示場所：宗像大社の池（心字池）

風にたゆたう、やわらかな雲。  
光を受けて透け、池の水面に映り込み、  
ふたつの空をつなぐ。  
あるはずのない場所に浮かぶ白いかたち。  
その違和感が、見る人のまなざしを引き寄せ、想像を広げていく。  
ひとりの思いから生まれ、  
みんなの手でかたちを成す雲。  
祈りを伝えるに訪れた参拝者の足もとで静かに揺れ、  
風景と交わり、神事の気配にそっと寄り添う。



### 篠田 ゆき

1988年生まれ。大阪芸術大学卒業。芸術祭やアートイベントなどで現地制作型のインスタレーション作品をつくる。現在は雲を浮かせる雲プロジェクトで実験的な作品を制作・記録し、素材と方法を模索しながら表現の幅を広げている。

■2024年公募による参加作家





## わらくじら

素材：わら・竹（宗像産）、木材  
展示場所：宗像大社境内 祈願殿前

山から湧き出る水に生まれ、  
実りを迎えた宗像の稲が、やがて大地に還る。  
そのわらを束ね、宗像の竹を組む。  
森の恵みが、玄海の家へとつながるくじらの姿が生まれた。  
かつてこの海を泳いだ大いなる影が、今、境内に静かにたたずむ。  
澄んだ空気の中、わらの香りがふわりと立ち、  
胎内を巡る楽しげな子どもたちの声が響く。  
くじらの腹の奥で、森と海の記憶が交わり、  
そっと祈りとともに漂い、次の旅もはじまった。  
そう、くじらは果樹の森へと引き取られ、新たな大地へ還っていく。



### わらアートJAPAN

2006年より新潟市岩室温泉地域で稲わらによる大型造形物の制作を開始。地元のをらや茅を使った地場特有のアート作品は、日本だけでなく、タイやオーストラリアといった世界へ広がり、地域や世代を超えた共創を実現している。

■2024年公募による参加作家





## あなた 彼方より

素材：石灰によるフレスコ、大理石モザイクなど  
展示場所：宗像大社高宮参道の社

はるか昔、遠い場所から届く祈りのかたち。  
宗像大社神宝館に収められた沖ノ島の滑石製舟形を題材に、  
ひとつひとつ丁寧に象られた舟には、宗像の草花が静かに咲く。  
木漏れ日のなか、光を受けた舟は、  
立体的に浮かび上がり、無数の舟がゆるやかに帰る影を映す。  
大地をつなぐ海を渡りながら、私たちは祈りとともに、  
遠い昔とまだ見ぬこれからの間を漂っているのかもしれない。



### 三石玄

東京藝術大学大学院修了。石灰と砂、石、顔料などを用いて、フレスコによるインスタレーションを発表。芸術はどこからきたのか、なぜ私たちはものをつくるのか、考えるように制作している。

■2024年公募による参加作家





## そこに映るあなたは ～先人より受け継がれたいのち～

素材：ペットボトル、アクリル、針金など  
展示場所：宗像大社 高宮参道の杜

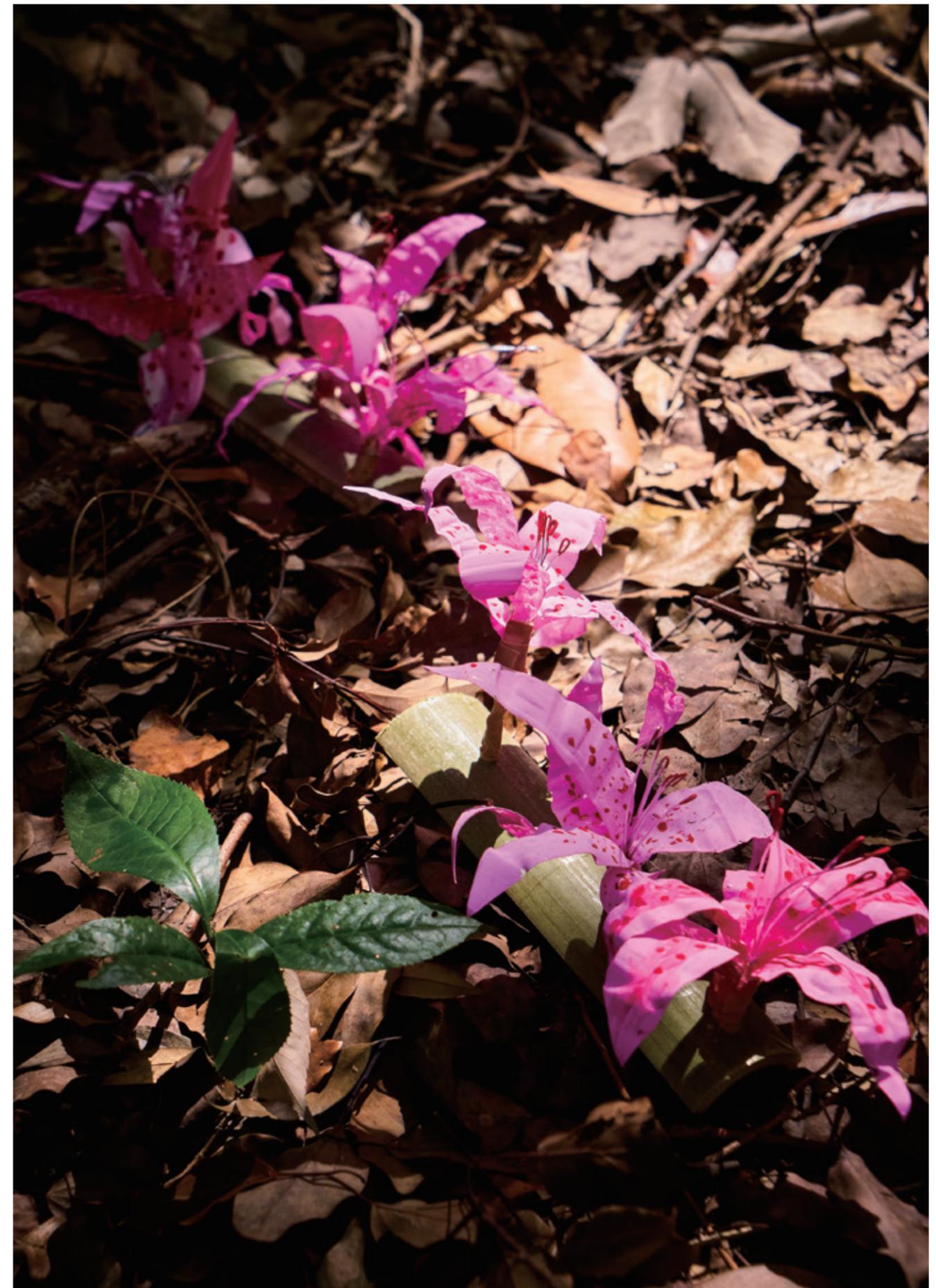
宗像の豊かな自然と歴史を象徴するカノコユリ。  
家庭から出るペットボトルを材料として再生し、  
地域の人々とともに約300輪の花を境内に咲かせた。  
鏡に映ることで、花々は幾重にも広がり、  
目の前に無数の命の輝きが生まれる。  
うっすらと透けた花弁は光を受けて揺らぎ、見る者の気配を映し出す。  
先人から受け継いだ命と自然への感謝が、  
現代の人工的素材と生きる人の手を通じて新たな形となり、  
未来へとつながっていく。



### 河谷 来明

宗像で生まれ育って18年（2024年当時）。市外での高校生活、海外研修など10代の豊かな経験を通して、改めて気づいた宗像の素晴らしさや住みやすさをアートとして表現。海洋ゴミの問題にも目を向け、日常の中にあるアートから感じる幸せを伝えたいと本年度の作品公募にて具体的なプランを提案。

■2024年公募による参加作家





## 音のみあれ



作品はこちらから  
視聴いただけます

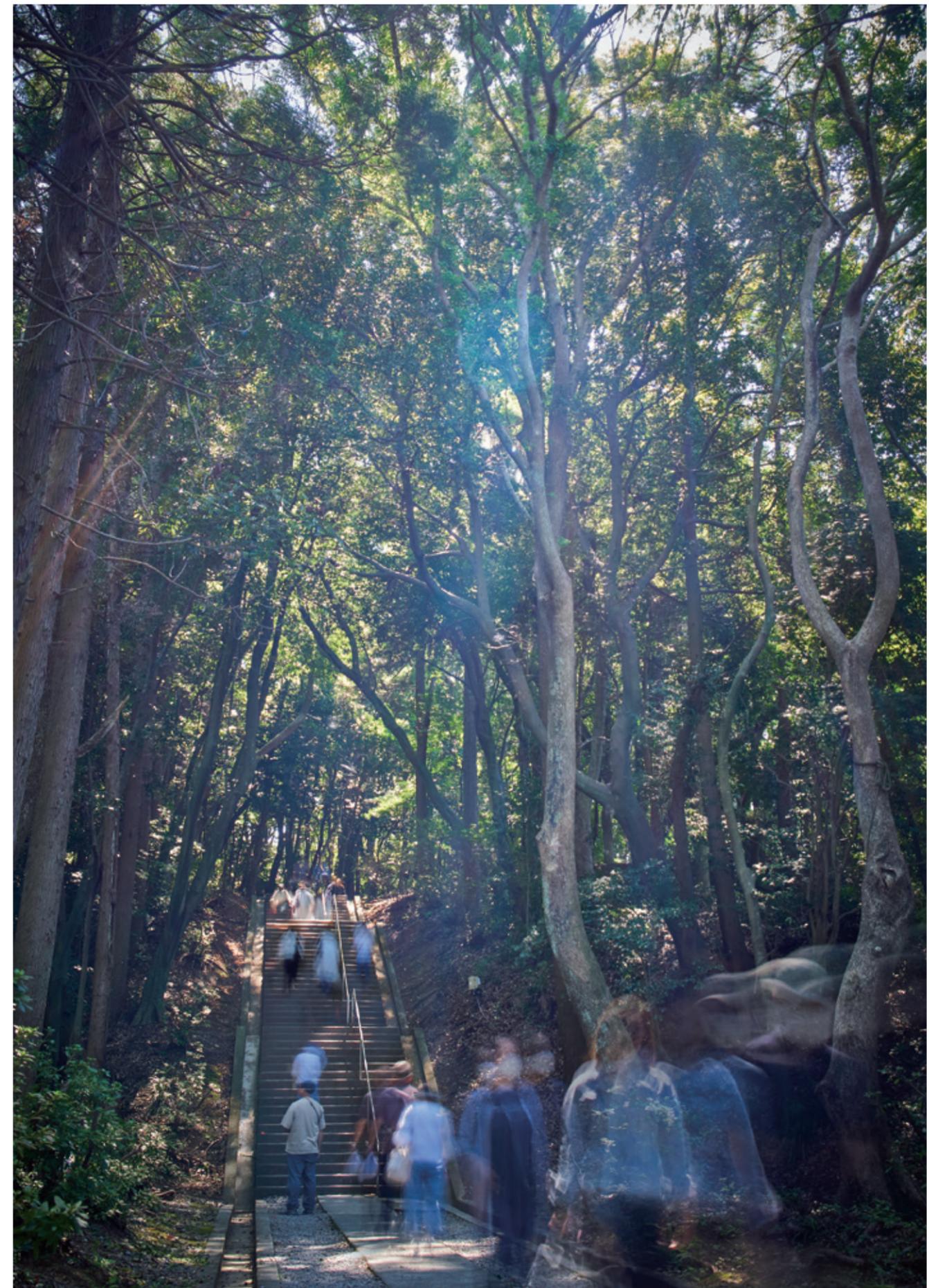
素材：宗像のサウンドスケープ（音風景）  
展示場所：宗像大社 高宮祭場への階段

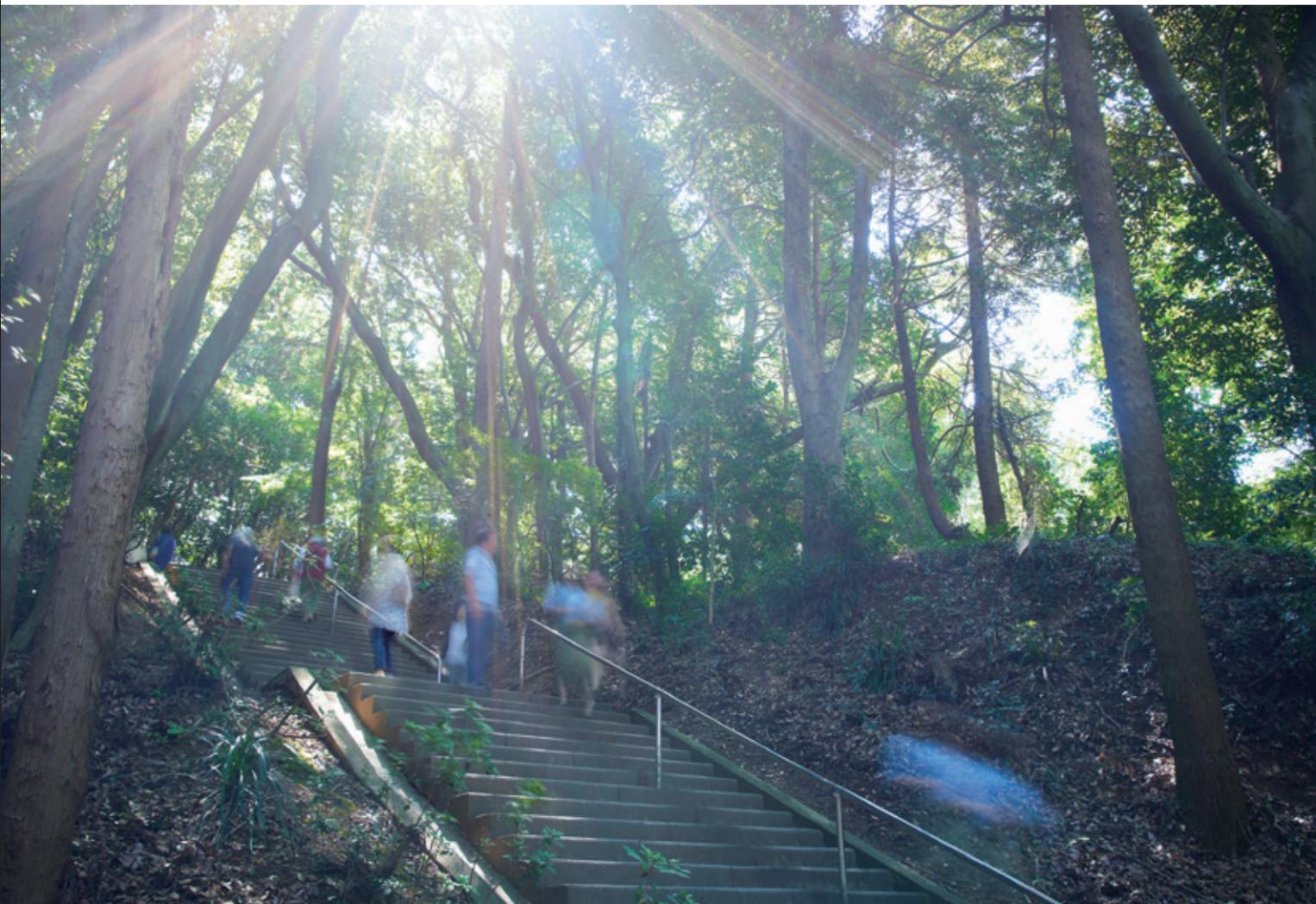
高宮祭場へと続く石段に足を踏み入ると、  
そっと耳をくすぐる音の流れ。  
木々を抜ける風のざわめき、鳥のさえずり、遠く波の響き。  
祈る人々の声はかすかに混じり、時を超えて静かに漂う。  
昨年、「音のみあれ」として響いたこの地の音が、  
新たな息吹をまとい、杜の中の参道の階段に溶け込んでいく。  
その余韻は、中野信子氏の作品「That Thou Art」へと続く扉となり、  
耳を澄ませば、見えない風景が、そっと心を揺らす。



### 橋本次郎

楽曲や音を主軸としたアート作品のほか、ある土地の文化や歴史、  
風土を背景とした「象徴的な音」をテーマに各地でフィールドレ  
コーディングを行い、そこで聴こえるサウンドスケープ（音風景）  
をモチーフとした作品を制作している。





めいりん  
命輪

素材：鉄板、ワイヤー、金具、ベースプレートなど  
展示場所：宗像大社 高宮祭場周辺  
協力：ヒロメンテナンス商会

大地に根ざす輪と、宙に浮かぶ輪。

互いに触れることなく、テンセグリティ構造によって  
張力と圧縮力の均衡のもとに成り立つかたち。

ゆるやかに引かれ、支え合いながら、まるで過去と未来が呼応するように佇む。

若き創造の手が編み出したこのかたちは、自由な発想の中で生まれた。

風が吹けば、大きな輪はわずかに揺れ、次の時代へと命が受け継がれていく。

静かに、けれど確かに、この地に響き続ける祈りは、

次の年も宗像ユリックス\*を訪れる人々の心を刺激する。

\*→P49



HÖSLAB 鹿児島大学 細海研究室

建築家・細海拓也が主宰する研究室。  
「建築と芸術」の連関を研究し、新しい建築と未来の  
都市のあり方を探求している。

■2024年公募による参加作家





## That Thou Art

素材：RAYCREA™（レイクレア）、脳波データ、光、鏡  
展示場所：宗像大社 高宮祭場横 高宮齋舎  
協力：日東電工株式会社

千年の時を超える高宮祭場のすぐそばに佇む小さな空間。  
伊勢神宮から譲り受けたその齋舎には、古代の息づかいが静かに満ちる。  
そこに揺れるのは、脳波が紡ぐ光の波。  
まるで月の満ち欠けのように、ゆるやかに変化し、鏡の中に映り込む。  
可視化された脳波のリズムは、静かな祈りの場に降り注ぎ、  
観る者の内なる世界をそっと映し出す。



### 中野信子

1998年東京大学工学部応用化学科卒業2008年東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了。2008年フランス国立研究所にて博士研究員として勤務。脳や心理学をテーマに研究や執筆の活動を精力的に行う。近年は様々なメディアを駆使しながら脳波を基軸としたインスタレーション作品など、幅広い表現を展開している。





## いつかここで

素材：プラスチックボード、ミラーフォイル、トレーシングペーパー  
展示場所：宗像ユリックス 古墳広場

遥かな時を超え、眠る丘の上に立つ。  
やわらかな光が透け、風がそっと流れ、  
映し出される景色は、見慣れたはずの風景をかすかに揺らす。  
ここは、古代の記憶を抱く場所。  
けれど、子どもたちは躊躇なく足を踏み入れ、  
映り込む不思議な世界に目を輝かせた。  
いつかここで、また誰かが立ち止まり、  
風景と遊びながら、新しい時間を見つけるのだろう。



### ソニア・チョン

香港出身、福岡拠点。香港バプテスト大学ビジュアルアーツ学部卒業。  
街のありふれた動きや目立たない物体を深く観察することで、人間と  
都市空間の関わりを探り、映像やインスタレーションの制作を行う。  
福岡、香港のほか、東京、大分、ニューヨークでも作品を発表。

■2024年公募による参加作家





## 制作の記録： アートが生まれるまで

作家、地域の人々、ボランティアが力を合わせ、  
少しずつ形になっていく時間。ここに、その歩みを記します。

### 4月～5月：はじまりの一步

春、新しい風とともに、芸術祭の準備が動き出す。  
公募が始まり、作家たちは「いのちを結ぶ」というテーマを胸に、  
それぞれの想いを作品へと落とし込んでいく。  
今年もまた、宗像の風景の中に  
どんなアートが生まれるのか——期待がふくらむ季節。

### 6月～7月：つながる力

公募作品の選考が進み、招待作家とともに、  
作品の内容や、会場配置が決まっていく。  
地域の方々や企業も準備を支えてくださり、  
材料や技術が集まり、制作環境が整えられていく。



### 8月～9月：かたちになる

暑さが増す夏、いよいよ制作が始まった。  
宗像ユリックスや宗像大社の境内では、  
作品が少しずつ姿を現し、  
ワークショップでは、地域の人々がアーティストとともに  
手を動かしながら、作品を作り上げていく。  
子どもたちが笑顔で筆を動かす姿、  
木陰で語り合うボランティアの人たち。  
制作の過程そのものが、  
すでにアートの一部になっているようだ。



### 10月：出会いのとき

そして、芸術祭が幕を開けた。  
20日間で約30,000人が訪れ、作品に触れ、心を動かし、  
アートを通じた対話があちこちで生まれる。



### 11月～：未来へつながる

芸術祭が終わったあとも、物語は続く。  
一部の作品は宗像ユリックスや地域の方が営む果樹園へ移設され、  
また新しい出会いを生んでいく。  
芸術祭は、一過性のイベントではなく、  
地域に根ざすひとつの灯りとして、これからも続いていく。





光延咲良「つなぎめ」  
つながる鉄のかたち。新たな場である宗像ユリックスでは、触れ、感じることで作品と対話する体験を楽しんでほしい。



HÖSLAB「命輪」  
張力と圧縮の均衡によって成り立つかたち。新たな場である宗像ユリックスでは、水面に反射しながら揺れる様子が、空間に新たなリズムを生み出す。

## Festivals & Events

アートの祭りは、人と地域をつなぎ、新たな景色を生む  
Moments That Connect People and Transform Places



## 子どもみあれアート&マルシェ

秋の風がそっと吹き抜ける9月22日、海と山、人をつなぐ「子どもみあれアート&マルシェ」が開かれた。会場は、宗像ユリックスのサーキットトレーニングコース。曇り空の下、少し雨を心配しながらも、元気にマルシェをひらく。焼き菓子や手作り雑貨、地元の特産品が並び、キッチンカーの香ばしい匂いが漂うなか、子どもたちは店をめぐり、店主たちとのやりとりを楽しんでくれた。アートや環境をテーマにしたワークショップでは、夢中になって手を動かす子どもたちの姿。音楽やアフリカンダンスのパフォーマンスが加わると、会場は歓声と拍手に包まれた。空の向こうに広がる未来へ、このマルシェでの経験が繋がっていきますように。



マルシェ開催時に描かれた、ブーヴェエ エミリオ 蓮によるライブペイント作品。その瞬間に生まれた色と線が、観る人の心を躍らせる。この作品は、芸術祭期間中、宗像ユリックス本館ホワイエにて期間限定展示された。ライブで生まれたエネルギーが、そのままの形で空間に広がり、訪れた人々に新たなインスピレーションをもたらした。

### 出店及びWS参加者

- キッチンカー縁
- 米粉たこやき・JAPAN
- Mr.GingerAle
- ひのさとブリュワリー
- CHEER UP PROJECT
- 85 ohana
- ヤスマ
- Nut Butters Shop
- 天然酵母ベーカリートキ子屋
- 農業福島園
- 焼き菓子工房 Ratatta
- 誉茶紡
- 自家製酵母スコーン屋 たねのおやつ
- 橋元商店
- マサエイ水産加工
- メゾンスワロー
- 自然・シンプル・こだわり食品のお店 たけや
- 吉田屋ファーム
- 宗像ファームガーデン
- 鐘崎のサザエ屋さん
- souleu
- フォーリー
- かずみのふんぼん屋
- オノマトベファクトリー
- がんこ本舗 まつぼっくり洗剤
- txtxt/ テキカケ
- Green Blue Life Labo
- よりみち
- あんこのあそびば
- 光延咲良
- HÖSLAB / 鹿児島大学 細海研究室

### パフォーマンス

- 一期一会
- 85Ohana
- ブーヴェエ エミリオ 蓮
- ramneu
- アフロとんこつ
- Go-Ko

津軽三味線・能の舞コンサート

## 宗像神話 海の調べ、千年の姫神を舞う —出光佐三の夢—

2025年1月18日、  
大濠公園能楽堂にて、新たなコラボレーションが生まれた。  
津軽三味線の音が静寂の中にひとすじの波紋を広げ、  
能の舞がそれを受けとめるように、ゆっくりと流れていく。  
異なる伝統が響き合い、そこに新しい物語が紡がれていった。  
「津軽三味線と能が響き合い、まるで一つの作品のようだった」  
「張りつめた静けさの中に生まれる緊張と美しさに心が震えた」  
—観客からも、新たな表現の可能性を感じる声が寄せられた。  
また、この舞台を通じて、宗像の歴史や文化に興味を持った人も多く、  
アートが地域の物語を伝え、新たなつながりを生む場となった。  
伝統と革新が出会い、新たな光が生まれ、未来へとつながっていく。



出演：津軽三味線=山口ひろし、宮沢莉乃音、宮沢愛乃音  
能の舞=観世流シテ方今村嘉太郎、観世流シテ方今村哲朗、  
観世流シテ方今村一夫、観世流シテ方林本大、金春流太鼓方吉谷潔

トーク：Sach (LOVE FMパーソナリティ)、岡 崇 (宗像市)、  
長友貞治 (宗像大社)、山口ひろし、今村嘉太郎  
協力：森弘子



## フォトコンテスト： 僕の神様の顔を探す

### 第一弾受賞者

第一弾では、宗像の風景の中に宿る“神様の顔”を、たくさんの方が探し出してくれた。「宗像大社のモアイ」「暑がりな神さま」「苦悩の神」——ユーモラスで、時に神秘的な“顔”たちが集まった。

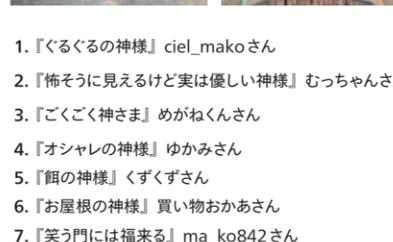


- 大社大賞** 1.『宗像大社のモアイ』むっちゃんさん  
**最優秀賞** 2.『暑がりな神さま』おおくぼなつきさん  
**優秀賞** 3.『苦悩の神』森うずさん  
**特別賞** 4.『手水舎の妖精』たくちゃんさん  
 5.『帯金具の神様』きみさん  
 6.『高宮祭場の左石神様』アリフォトさん  
 7.『門の神様』えびがたはるさん



### 第二弾受賞者

好評を受けて第二弾を開催。応募作品の中には、神様だけでなく、妖怪や架空の生き物の顔も加わり、「ぐるぐるの神様」「ごくごく神さま」「お屋根の神様」など、想像力豊かな“顔”が、またひとつ宗像の風景に刻まれた。



- 大社大賞** 1.『ぐるぐるの神様』ciel\_makoさん  
**最優秀賞** 2.『怖そうに見えるけど実は優しい神様』むっちゃんさん  
**優秀賞** 3.『ごくごく神さま』めがねくんさん  
**特別賞** 4.『オシャレの神様』ゆかみさん  
 5.『餌の神様』くずくずさん  
 6.『お屋根の神様』買い物おかさん  
 7.『笑う門には福来る』ma\_ko842さん

この世界には、どんな「顔」が隠れているのだろうか？

岩のくぼみ、木の模様、影の形——

ふとした瞬間に、誰かがこちらを見つめているような気がする。

「僕の神様の顔を探す」フォトコンテストは、そんな“顔”を見つけ、名前をつけ、言葉を添える遊びから生まれた。

目には見えない存在を感じる。身のまわりの風景に、物語を見つけること。

大人も子どもも、そんな遊び心を忘れずに。第一弾、第二弾の受賞作品が、

またどこかで皆さんの前に現れる日を、楽しみにしています。

## 色彩が響き合う 障がいとともに生きるアート展 in むなかた茶愉

主催：一般社団法人 障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会

参拝の帰り道に立ち寄る人、お茶を楽しむ人。

カフェの壁にかけられたカラフルな絵画が、静かに寄り添った。

この展示は、「アール・テロワール<sup>®</sup>」の協力による、

宗像みあれ芸術祭の関連プログラムとして2023年に始まった。

「アール・テロワール」は、障がいとともに生きる人たちの表現を応援し、

アートを通じて社会とつながる場をつくる活動を行っている。

鮮やかな色彩、自由な筆の動き——

作品が語る世界に、足を止める人、そっと見つめる人。

「この色の組み合わせが素敵」と、言葉を交わす姿も。

アートには、言葉を超越して人と人を結ぶ力がある。

「むなかた茶愉」の穏やかな時間の中で、

その色と形は、訪れた人々の心にそっと溶け込んでいった。

※一般社団法人 障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会によるアート販売事業



## のぞきあなART —小さな箱から広がる世界

主催：のぞきあなARTプロジェクト

ふと覗き込んだその先に、どんな景色が待っているのだろうか。

「のぞきあなART」は、小さな視点の中に広がる

無限の可能性を探るアートプロジェクト。

視界を限定することで、見えるものの輪郭が際立ち、

日常では気づかない新たな世界が立ち現れる。

のぞくという行為を通じて、私たちは内と外を行き来し、

風景の中に自分を見つける体験をするのかもしれない。

2024年の芸術祭関連展示として、宗像大社境内（神宝館前）に

作品名「緑～波折神社との結～」を展示したアーティスト・安部愛梨。

彼女の作品は、何気ない風景の中に静かな違和感を紛れ込ませ、

現実とのあわい<sup>\*</sup>を生み出していた。

この作品は、福津市津屋崎の波折神社に展示した作品とも呼応し、

海と森のつながりをそっと映し出す。

覗く人が感じるのは、不思議なざわめきか、それとも懐かしさか。

のぞきあなを通して広がる景色は、誰かの記憶の奥深くに降り積もり、

やがてまた、新たな風景を映し出していく。

※穴の向こうの世界の間にある不思議な領域という意味合い



### 安部愛梨

福岡県出身。九州産業大学芸術学部在学中。田舎の自然に囲まれて育ったことから、自然や偶然性をテーマに、日常生活から得た感情や想いを元に作品を制作している。

# みあれアートマップ2024

古代に想いを馳せて。会場を彩るアート作品巡り。

海と山に抱かれた宗像の地に、多彩なアートが息づく。宗像大社境内には、地域協働による作品や、祈りの歴史を可視化した作品などが点在し、宗像ユリックスには、古墳の上に登場した風景を取り込む作品や、ライブペイントによるダイナミックな作品が、訪れる人々を包み込む。

芸術祭会期後も、一部の作品は期間延長展示され、宗像のまち全体が少しずつアートで満たされていく。このマップを参考に、宗像の新たな風景を見つけてほしい。

## 凡例

番号は各作家の作品が展示された場所を示します。

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| 01 光延咲良       | 07 HÖSLAB / 鹿児島大学 細海研究室 |
| 02 篠田ゆき       | 08 中野信子                 |
| 03 わらアートJAPAN | 09 ソニア・チョン              |
| 04 三石玄        | 10 のぞきあなART・安部愛梨        |
| 05 河谷来明       | 11 ブーヴィエ エミリオ 蓮         |
| 06 橋本次郎       | ■ は公募作家                 |

01 光延咲良「つなぎめ」、07 HÖSLAB / 鹿児島大学 細海研究室「命輪」は2025年秋まで宗像ユリックスへ移設・延長展示

03 わらアートJAPAN「わらくじら」は芸術祭終了後、宗像市吉留のコミュニティガーデン「小さな森」へ移設。期間は未確定。

のぞきあなART拠点



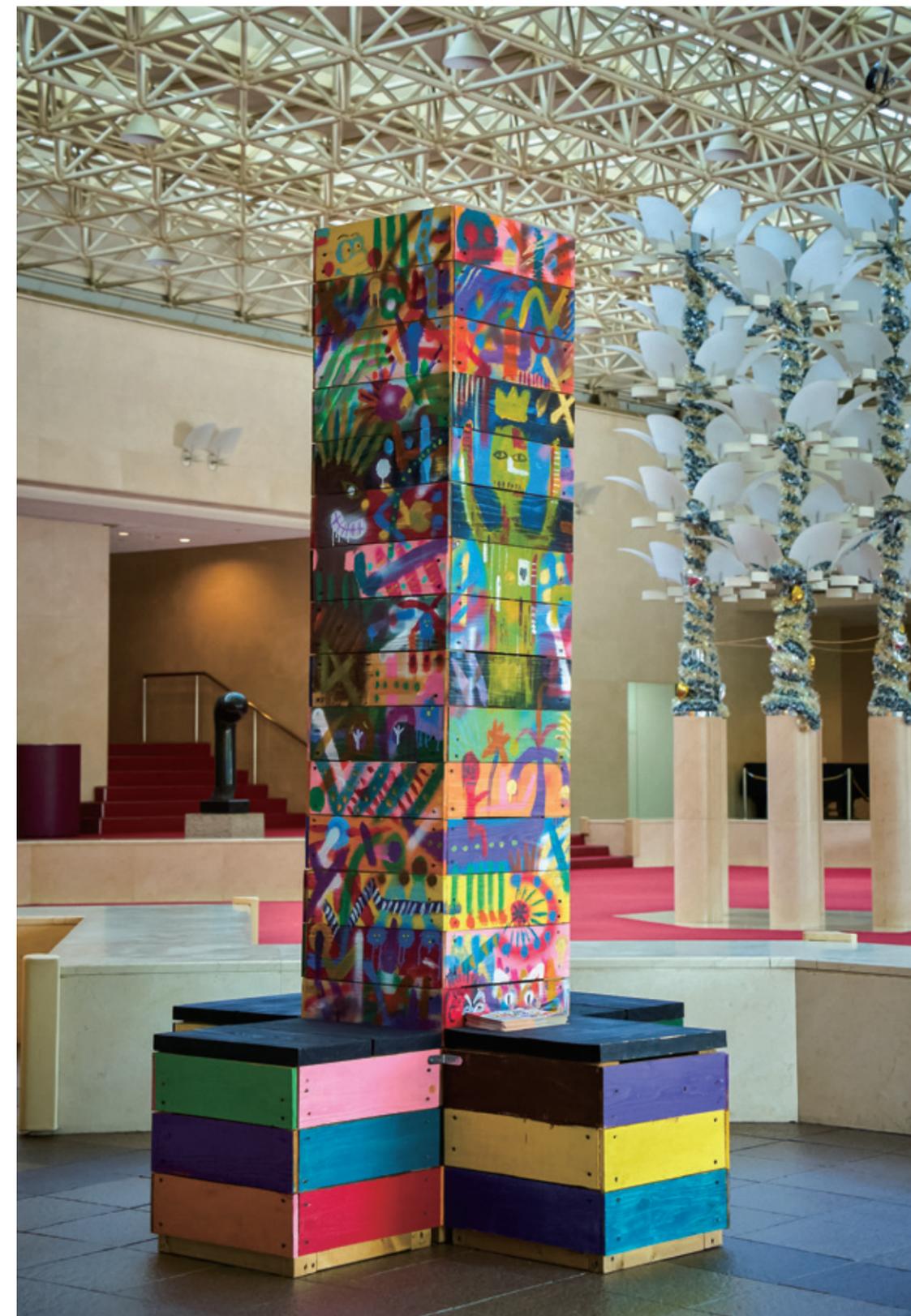
01 「つなぎめ」  
07 「命輪」

宗像ユリックス  
09 11

03 「わらくじら」  
コミュニティガーデン「小さな森」へ



安部愛梨「縁～波折神社との結～」(のぞきあなARTプロジェクト)  
 小さな穴の向こうに広がる、もうひとつの世界。宗像大社 神宝館前では、  
 のぞく行為を通じて観る人の記憶や想像が揺れ動く体験を生み出した。



ブーヴェ・エミリオ・蓮「ライブペイント」(in 宗像ユリックス)  
 即興の筆が生み出す、瞬間のアート。マルシェ開催時に制作された作品は、  
 宗像ユリックス・ホワイエホールにて会期中展示された。

## Legacy & Future

遺されるもの、未来へむかうもの  
Preserving the Past, Creating the Future

## 国宝8万点 —1700年の祈りを、これから先も

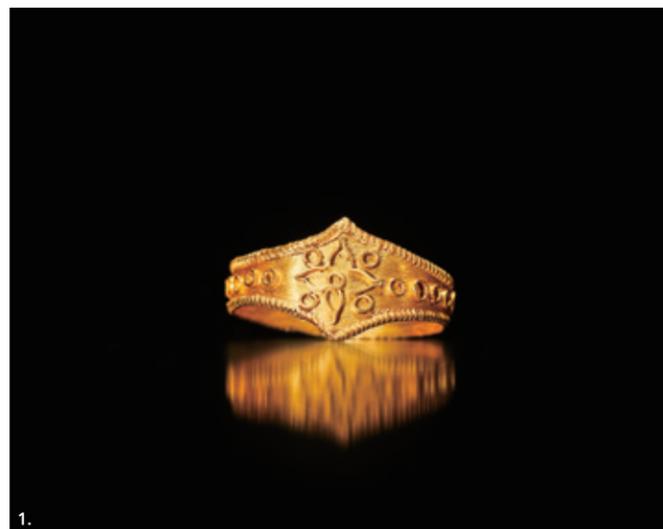
### Home to 1,700 years of living history

宗像大社 神宝館。そこには、遥か昔から受け継がれてきた8万点の国宝が静かに眠っている。海を越え、時を越え、祈りとともに捧げられた宝物たち。それらが語る物語を、今、未来へと紡いでいく。

本年度は世界遺産宗像の神宝館展示更新事業として、宗像大社と「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会とともに新たなパンフレット（日英版）、展示パネル（日英版）、英語版ウェブページを制作し、宗像の歴史と文化をより深く伝えるための形を整えた。国宝に込められた想いが、時代を超えて響き続けるように。

静かな展示室の中で、光に照らされる神々にささげた美宝。その輝きは、千年以上前の海の記憶をたたえながら、先人がそうしてきたように、守り伝えられ、これから先の時代を照らす道しるべとなっていく。

※本事業は、令和6年度文化庁「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」の世界遺産体感展示等展示更新事業（宗像大社神宝館）として実施されました。



1.は国宝「金製指輪」5～6世紀。2.は国宝「金銅製鈴」8～9世紀。  
3.は国宝「三角縁神獸鏡」3世紀。4.は国宝「滑石製舟形」8～9世紀。  
5.と6.は宗像大社・神宝館の展示室の様子。



## この芸術祭をもっと豊かに、もっと遠くまで

私たちの想いに共鳴し、クラウドファンディング（CAMPFIREにて実施）を通じて127名の皆さまから、総額1,520,900円の温かいご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

皆さまの応援が、アートの種となり、作品制作や芸術祭の運営、文化財を未来へ伝える取り組みへと広がってまいりました。おかげさまで、今年の芸術祭では作品の長期展示が実現し、新たなグッズの制作や、次なる創造のための資金づくりへとつながる一歩を踏み出すことができました。

ご支援があったからこそ、アートはより遠くへ広がることができました。この場をお借りして、あらためて感謝申し上げます。皆さまの想いととも、これからも芸術祭を育てながら、宗像の風景の中にアートの息吹を残していきたいと思えます。

実施期間：2024年9月20日～10月20日

ご支援者数：127人

ご支援総額：1,520,900円

ご支援者の皆さま（記録集掲載ご希望者のみ）



アルテロワール様  
（一般社団法人 障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会）

株式会社 ヒラヤマ（鹿児島県出水市）様

株式会社 サイプレス・スナダヤ様

高橋咲江様

NPO法人 クラン様

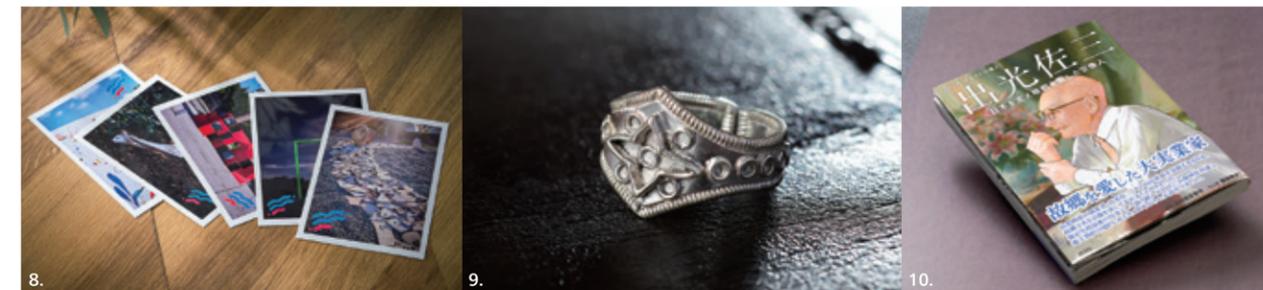
株式会社 弘江組様

有限会社 若松地所様

砥綿隆二様

川田祥子様

※このほかにもたくさんの方々にご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。



さまざまなアーティストとともに生み出したオリジナルグッズ（1～8.）。1.は河谷来明さんとコラボしたオリジナルスニーカー。2.は屋外でも使用も便利なオリジナル野帳。3.は土製の「祈りの鈴」。4.は芸術祭ロゴをあしらった手ぬぐいと缶バッジ。5.と6.は光延咲良さんのオリジナルスプーンで、名入れ対応も可能。7.はみあれ船が刻まれた銅のお皿。8.はオリジナルポストカード。9.は神宝館収蔵の金製指輪をモチーフにしたシルバerring。10.はビジョンづくりの参考の一冊として、「出光佐三」漫画をクラウドファンディングで紹介した。

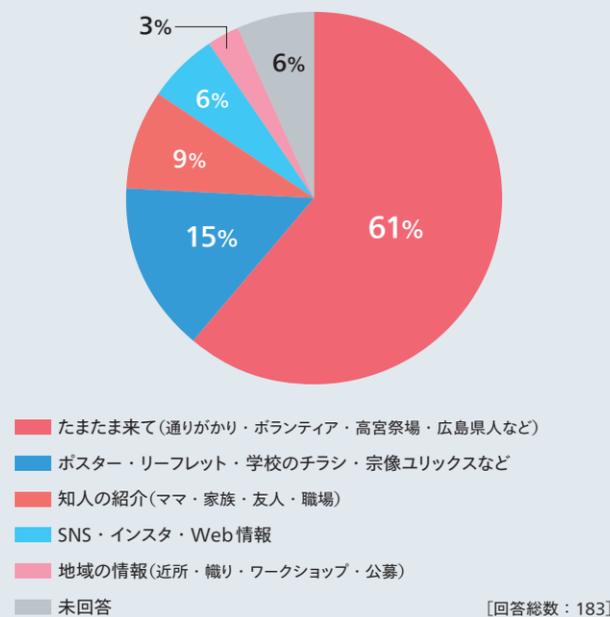
# 会場で出会った、みなさまの声

— 来場者アンケートで振り返る、芸術祭の記録 —

宗像みあれ芸術祭の会場で、多くの来場者がアートと出会い、感じたこと、考えたこと。そのリアルな声をアンケートを通じて集めました。どこでこの展示会を知り、どんな目的で訪れ、何が心に残ったのか。数字とコメントで振り返る、芸術祭の記録です。

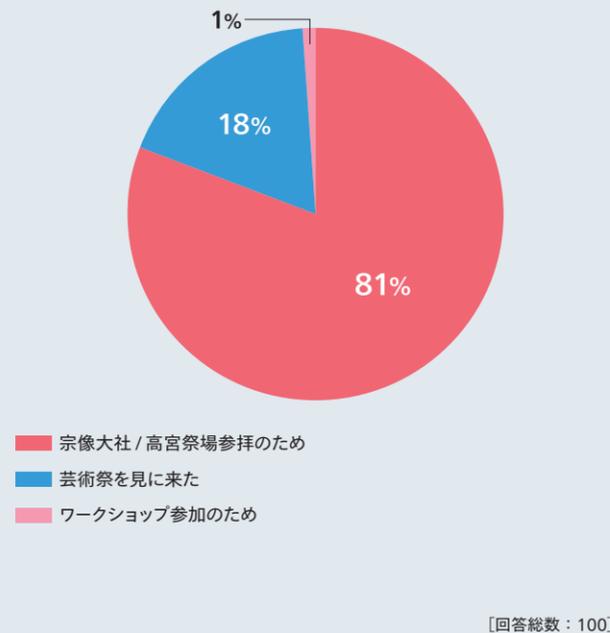
## 1. 展示会の認知経路

この展示会をどこで知りましたか？



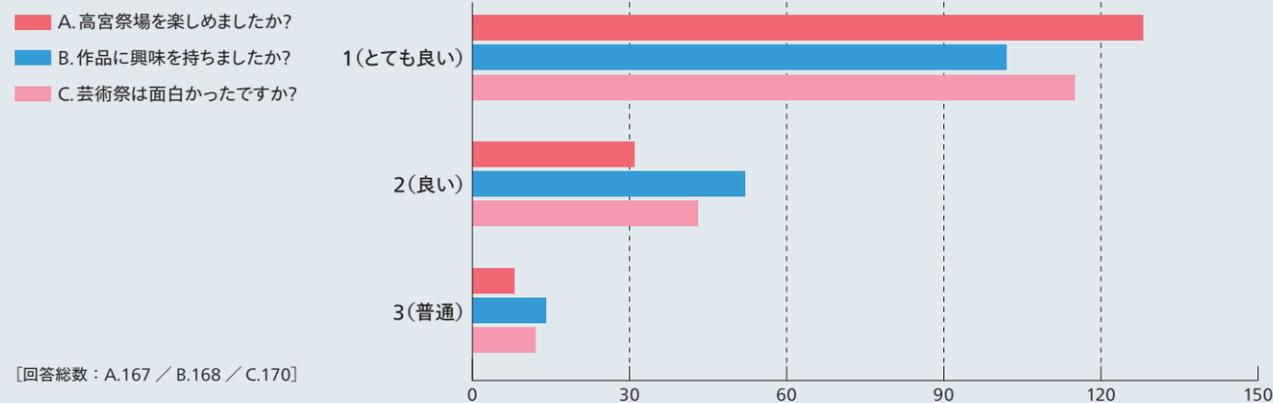
## 2. 来場目的

本日、どのような目的で来場しましたか？



## 3. 芸術祭の評価

芸術祭の満足度は？



## 4. 来場者の声

宗像大社・高宮祭場に関するコメント

- 傾向**
- 神聖な雰囲気とアートの融合が好評
  - 自然の中でアートを楽しめる点が評価されている
  - 作品の説明があったことで理解が深まり、展示数の拡充を希望する声も

- 代表的な意見**
- 「宗像大社は何度も来ていますが、今回の芸術祭は初めてだったのでとても楽しい時間を過ごせました。また機会があれば来てみたい。」
  - 「とってもすがすがしい気持ちになりました。」
  - 「展示の解説があり、神秘的な展示物だと感じた。」
  - 「宗像大社をみながらアートを見てたのしかったです！」
  - 「理解が難しいものがいくつかあってもうちょっと説明が欲しかった。」
  - 「もう少しアートが多いとうれしい。今の展示も神秘的で良かった。」

- 👑 キーワードランキング**
- 高宮祭場に初めていった。
  - 神秘的
  - 楽しかった
  - New
  - God, Happy, fresh, Relaxed

印象に残ったこと

- 代表的な意見**
- 「二つの輪が浮いているようになってすごかった。」
  - 「くじらがおもしろかった。『おぎゃあ』と言って出ました。」
  - 「命輪…とても気になっていろいろな角度から見ました。わらくじら…中がとてよくて座っている中が見れた。」
  - 「神社での展示に荘厳なイメージを、より感じられました。不思議な感じがしました。」
  - 「展示物の作品を解説して下さったスタッフの方がいらっしゃって、神秘的な展示物なのだと感動しました。」

- 👑 キーワードランキング**
- わらくじら
  - 命輪
  - 未回答
  - そこに映るあなたは ~先人より受け継がれたいのち~

## 5. 新しい出会いや学び

今回、新しい出会いや学んだことは？

- 傾向**
- アートを通じて新しい視点を得たとの声が多い
  - 自然や歴史とアートの関係を学んだ人が多い
  - ワークショップや体験型の作品を通じた学びが印象的

- 代表的な意見**
- 「宗像大社の歴史を初めて学んだ。」
  - 「まだよくわからないが、興味が湧いた。」
  - 「自然とアートと神社のコラボが新しい時代の形だと思いました。」
  - 「とてもすがすがしい気持ち。」
  - 「神宝館で沖ノ島のことを初めて知り、学びました。」

### 広報活動報告

## 宗像に刻むアートの灯りを、もっと広げて

2024年の宗像みあれ芸術祭を、より多くの人へ——。宗像の風景に息づくアートが、より多くの人々の心に届くように、広報活動を展開した。

JR博多駅を中心に、歴史とアートの息吹を感じたデジタルサイネージ。宗像ユリックスや市内施設に、ポスターやチラシを。芸術祭の想いは、NHK福岡「はっけんTV」や、マガジンハウス「コロカル」、宗像経済新聞にも取り上げられ、さらに、私たちのホームページやSNS発信のほか、参加アーティスト発信や鹿児島大学公式HP掲載など、オンラインでも光が広がるよう発信を続けた。

人から人へ、言葉から言葉へ。こうして生まれたつながりが、また次の誰かがやがて辿り着く、この地に残るアートの灯が、より遠くへ伝わっていきますように。



# 2024年の活動を支えてくださった方々

宗像を中心としたアート活動および本書刊行にあたり、多大な協力を賜りました。  
ご関係のみなさまへ深く謝辞を申し上げます。(敬称略・順不同)

## 協力

### プロジェクト全体

宗像大社  
宗像市 文化スポーツ課  
宗像ユリックス  
協力=「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会  
サイン看板制作=芹野義則(プロテ)

### 作家など

光延咲良  
設営・移設協力=瀧口元和(Life Style Design)、  
ニイカド・マルセロ・アレハンドロ  
ワークショップ運営=本岡夏鈴、平島幸菜、前津千羽、矢野乃瑚、  
野上ちとせ、半田絢香、川端与輝、北川葵(大宰府高校のみなさま)  
ワークショップ会場協力=株式会社むなかつ未来 / むなかつ茶愉

### 篠田ゆき

制作協力=瀧口元和(Life Style Design)、砥綿隆二、  
ニイカド・マルセロ・アレハンドロ、山村真凜

### わらくじら

わらアート JAPAN=野口正治、平松保男、宮島慎吾、齋藤茂、守屋陽、  
小林道正、山本建太郎  
設営・移設協力=瀧口元和(Life Style Design)、  
ニイカド・マルセロ・アレハンドロ、砥綿隆二、原享志、塩川卓郎  
わら協力=みきふあーむ(宗像)  
竹協力=宗像里山の会  
作品制作協力=株式会社くりえいとのみなさま、株式会社 minori (長谷川公久、  
柴田麻実、星野太望、松本樹、谷川和志、堤紗彩)

### 三石玄

協力=篠田ゆき

### 河谷來明

ワークショップサポート=河谷友美、河谷洋三、矢野駿一郎、辻嶋真樹子  
設営協力=瀧口元和(Life Style Design)、  
ニイカド・マルセロ・アレハンドロ、山村真凜  
ワークショップ会場協力=サンリブくりえいと宗像

### 橋本次郎

設営協力=株式会社 KDK

### HÖSLAB / 鹿児島大学 細海研究室

鹿児島大学=細海拓也、赤坂菜摘、野上奈々恵、碓野匠、板井成樹、谷村和哉、  
吹留史恵、金多現、中村達哉、井崎丈  
制作・設営協力=ヒロメンテナンス商会、瀧口元和(Life Style Design)、  
株式会社大林組  
移設協力=瀧口元和(Life Style Design)、ヒロメンテナンス商会、  
野田泰裕(宗像ユリックス)、原享志

### 中野信子

コーディネート=堀江紀子  
素材協力=日東電工株式会社

### ソニア・チョン

設営協力=山村真凜

### 関連企画・イベントなど

子どもあれアート&マルシェ  
企画・運営=大久保菜美  
協力=宗像ユリックス  
会場設営協力=瀧口元和(Life Style Design)、杜胡、ひのさと 48  
運営サポート=田代信子、上野健一、古屋真理子  
アート提供：ブーヴィエ・エミリオ・運

### スタンプラリー

景品協力=マサエイ水産加工、自家製酵母スコーン屋たねのおやつ、みどりtoyかり、  
自然・シンプル・こだわり食品のお店たけや、天然酵母ベーカリートキ子屋、よしみち、  
宗像ファームガーデン、フォーリー、がんこ本舗  
はんこ制作=ハナウタヤ

### 津軽三味線・能の舞コンサート

会場提供=大濠公園楽楽堂  
告知協力=古島彩(株式会社島田建築設計事務所)  
運営ボランティア=二宮聡、井上亮子、橋爪寛、山中和美、市田正弘、大久保菜美

### フォトコンテスト

企画運営=松本尚吾  
障がいとともに生きるアート展(アールテロワール)  
企画運営=池田武史、  
安田恭子(一般社団法人 障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会)  
会場協力=株式会社むなかつ未来 / むなかつ茶愉

### のぞきあな ART・安部愛梨

協力=三浦直子(のぞきあな ART 主宰)、ロバート・プラット(九州産業大学)

クラウドファンディング協力：福岡銀行地域共創部、石原稔久

### 運営サポーター

※本芸術祭にボランティア登録し、実際に活動いただいた方々を掲載しています。

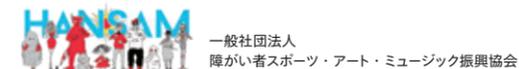
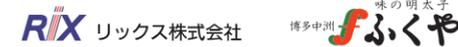
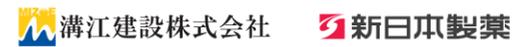
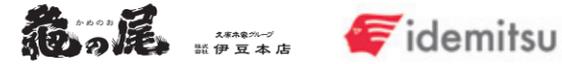
### 宗像歴史観光ボランティアの会のみなさま

松本壽一、坂梨千尋、福島裕記、手塚智子、野田宜嗣、野々下一郎、牛之浜克郎、  
津村美保子、古賀一彦、松波弘二、井上亮子、升谷智子、小田幹夫、大庭佳保子、  
藤野直子、田中真敏、魚住久信、岩佐加代子、椋本和代

### 個人のみなさま

大久保菜美、城野寿美礼、橋爪寛、砥綿隆二、田代信子、上野健一、山村真凜、  
相部麻里、相部帆乃果、富永理絵、松山絵里子、江熊典子、橋元泉、河谷友美、  
河谷洋三、矢野駿一郎、辻嶋真樹子、古屋真理子

## 協賛企業



## 協力



## 主催

西日本新聞社、宗像現代美術展実行委員会

## 共催

宗像市、宗像市教育委員会、宗像ユリックス、宗像大社

## 特別協賛

久原本家グループ

## 助成



Supported by the Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan in fiscal 2024

※本芸術祭全体ではなく、関連事業の一部である「宗像大社神宝館  
展示更新事業」およびアート企画による高宮祭場環境整備事業は、令  
和6年度 文化庁「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化  
観光推進事業」の支援を受けて実施されました。

## 連携協力

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会  
のぞきあな ART プロジェクト  
一般社団法人 障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会

## 運営組織

[宗像現代美術展実行委員会]  
会長：葦津敬之(宗像大社宮司)  
副会長：谷井博美(宗像ユリックス理事長)  
顧問：島田隆士(宗像大社神社総代)  
事務局長：長友貞治(宗像大社権禰宜)  
経理：船越裕介(宗像大社権禰宜)  
委員：宮崎克史(株式会社くりえいと 代表取締役)  
萩野賢教(宗像市文化スポーツ課)  
南宏和(宗像市教育委員会)

## [公募作家選考審査員]

山出淳也(Yamaide Art Office 株式会社)

## 企画運営体制

宗像現代美術展実行委員会  
アートディレクター：青柳舞(株式会社 art cantiere maimai)  
アートコーディネーター：青柳道夫  
記録撮影・イベント企画：松本尚吾  
マルシェ・プランナー：大久保菜美  
メインデザイナー：永田修平  
伝統芸能コンサート デザイナー：ソエジマカズコ  
ウェブサイト制作：楠林いずみ



宗像里山の会のみなさま

わらアート JAPANのみなさま

鹿児島大学細海研究室のみなさま

## 宗像みあれ芸術祭2024 記録集

文章執筆・編集：青柳舞

校正：宗像現代美術展実行委員会

デザイン：永田修平

写真撮影：松本尚吾

※ p2-3、7、56、64の写真は、ご協力いただいた皆さまのお力添えにより掲載しています。

発行者：宗像現代美術展実行委員会

〒811-3505 福岡県宗像市田島2331

発行日：2025年2月28日